販売店様専用
SS シリーズ　メンテナンスマニュアル

メンテナンスの前に必ずお読みください

目次

１．ＳＳシリーズの型式、仕様について・・・・・・・・・・・Ｐ２

２．メンテナンスの必要性について・・・・・・・・・・・・・Ｐ３

３．ストーブの内部構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ４

４．メンテナンス作業に必要な工具類や交換部品・・・・・・Ｐ５

５．メンテナンス作業を行う前に・・・・・・・・・・・・・・Ｐ６

６．メンテナンス項目、手順・・・・・・・・・・・・Ｐ６～Ｐ２８

①燃焼炉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ７～Ｐ９

②燃料タンク・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ１０

③本体機械室、電装品・・・・・・・・・・・・・Ｐ１１～Ｐ２６

④給排気筒・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ２７～Ｐ２９

７．動作確認・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・Ｐ３０

warmArts

１．SS シリーズの型式、仕様について

製品の型式や製造番号によって、電装品や仕様が異なります。
メンテナンス前に型式や製造番号を確認してからメンテナンスをおこなってください。

【型式】

●SS-１　初期型（製造番号が○○.○○で始まる）
　例）10.11-012345
　排気ファン（脱着不可）、温風ファン（脱着不可）、燃焼ファン

●SS-１　後期型（製造番号が 6 桁、西暦から始まる）
　例）01235　または 2013-012345
　排気ファン（脱着可）、温風ファン（脱着可）

●SS-２
　排気ファン（脱着可）、温風ファン（脱着可）
　※ 6 桁初期の製造番号に脱着不可あり

●SS-５
　排気ファン（脱着可）、温風ファン（脱着可）

●SS-５plus
　排気ファン（脱着可）、温風ファン（脱着可）

●SS-10　初期型（製造番号が○○.○○で始まる）
　例）10.11-012345
　排気ファン（脱着不可）、温風ファン（脱着不可）

●SS-10　後期型（製造番号が 6 桁、西暦から始まる）
　排気ファン（脱着可）、温風ファン（脱着可）
　※ 6 桁初期の製造番号に脱着不可あり

※脱着不可の電装品と、可能の電装品はメンテナンスの方法が異なりますので、マニュアルに従い清掃をおこなってください。

２．メンテナンスの必要性について

長期使用によりペレットストーブ燃焼炉内や排気経路である排気ダクト、排気ファン、給排気管内に灰やススが付着してきます。灰やススが大量にたまると、正常に給排気ができず不完全燃焼を起こしやすくなり、煤の大量発生や部品の早期故障やストーブの適正運転に支障をきたすなどトラブルの可能性が高くなります。
ペレットストーブを長持ちさせ、快適にご使用いただく為に定期的な清掃、点検等メンテナンスの必要があります。

※長期間清掃をしていなかった様子


燃焼炉内


温風ファン

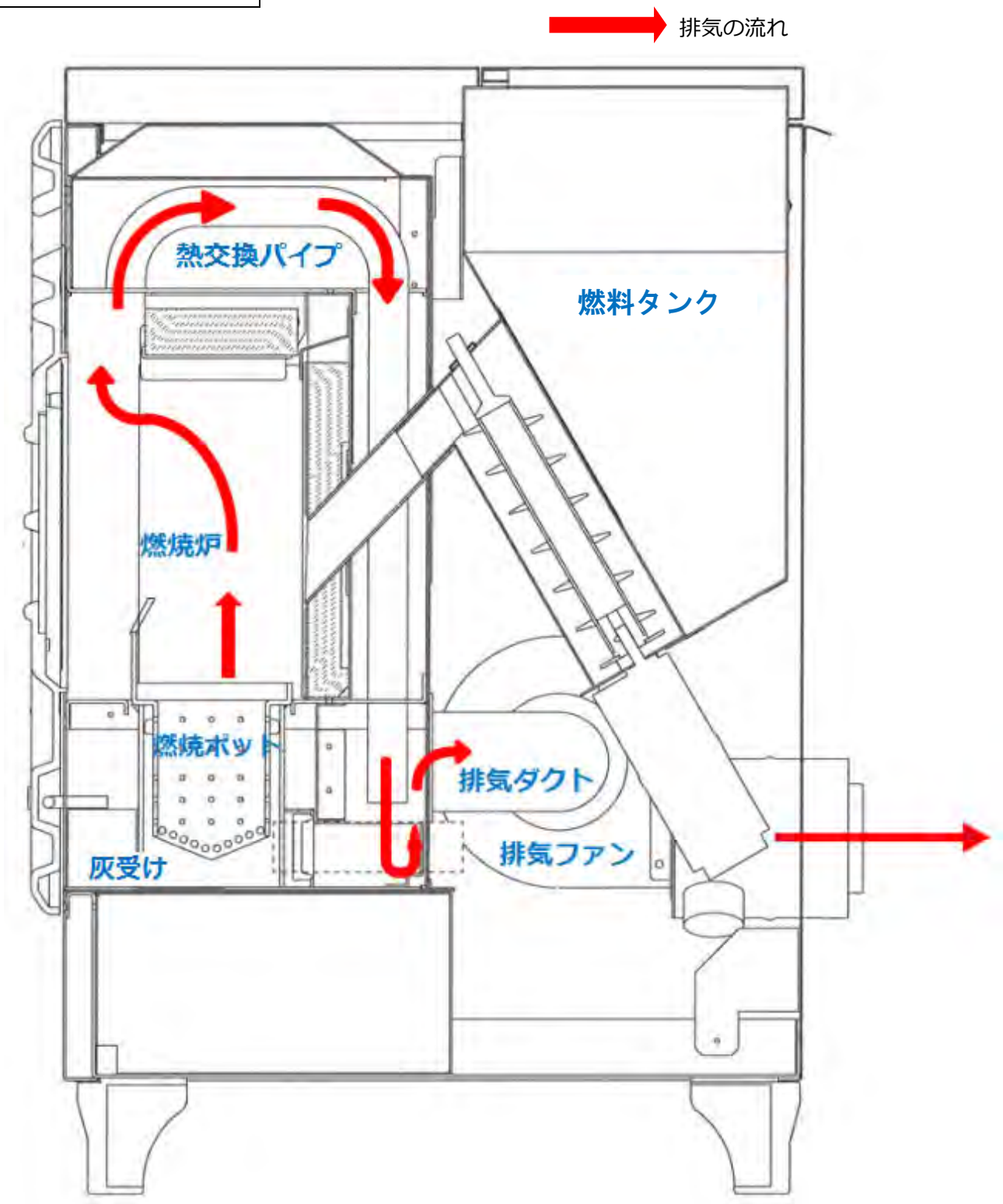

給排気筒内


排気ファン

３．ストーブの内部構造

メンテナンスが必要となる箇所は、以下の通りです。

SS シリーズ　断面図



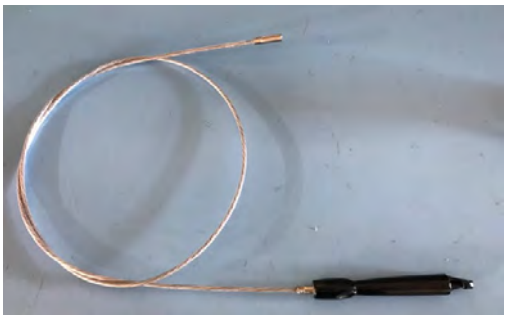
４．メンテナンス作業に必要な工具類や交換部品

■プラスドライバー（№2）（№3）※ロングドライバー、ショートドライバーも必要（ロングは 30 ㎝、ショートは 10 ㎝推奨）■マイナスドライバー
■六角棒レンチ（５㎜）　■ペンチ　■スクレイパー
■エアダスター（噴射口に合うシリコンチューブも一緒に用意必要）
■ブラシ又はハケ※柔らかい素材も必要
■養生シート（床・壁）　■ビニール袋　■ウエス　■綿棒　■手袋
■集塵機(乾湿両用掃除機)　■ザル※ペレットの粉をふるいながら燃料タンク内のペレットを取り除くため　■懐中電灯　■養生テープ
■本マニュアル　■取扱説明書　■防塵ゴーグル　■防塵マスク

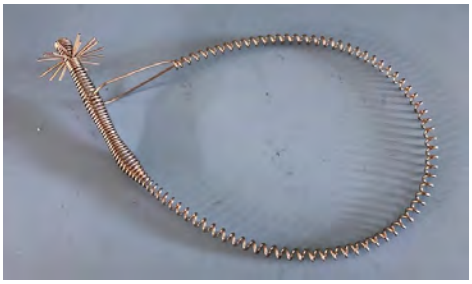
■排気筒掃除用ブラシ　（弊社販売品）



■排気筒掃除用棒　（弊社販売品）



■バネブラシ　（弊社販売品）



劣化状況や必要に応じて交換する消耗品や補修用性能部品

・扉用ガラスロープ
・灰受けガラステープ
・耐火レンガ
・燃焼ポット[内]
・各種ファン（排気ファン、温風ファン、燃焼ファン）

※各種交換手順は別紙手順書がございますので、手順書に従い交換を行ってください。

５．メンテナンス作業を行う前に

※室内で作業をおこなう際は、安全な作業スペースを確保し、床や壁に養生を施すなど細心の注意を払い作業をおこなってください。
※必ず防塵メガネ・防塵マスク・手袋を着用して作業をおこなってください。
※作業前に動作確認をして、異音や動作不良の有無を確認してください。
※パネルを取り外す作業のある場合は、電源コードをコンセントから抜いて作業をおこなってください。
※作業終了後は作業周辺を清掃してから、道具の搬出をおこなってください。

６．メンテナンス項目、手順

①燃焼炉

- ・熱交換パイプ（８本）
- ・レンガスペース（小、大）
- ・灰受け
- ・給気パイプ
- ・扉
- ・耐火レンガ（側面、背面、天面）
- ・ペレット投入口
- ・燃焼ポット（内、外）
- ・燃焼炉内
- ・耐火ガラス窓

②燃料タンク

- ・スパイラルカバー
- ・燃料タンク内
- ・スパイラル
- ・スカット（オプション品）

③本体機械室、電装品

- ・排気ファン
- ・燃焼ファン（初期型のみ）
- ・側面、天面吸気口アミ
- ・温風ファン
- ・本体機械室内

④給排気筒

- ・給排気筒内
- ・排気トップ

①燃焼炉

※電源スイッチを『入』にし、排気ファンを回しながらメンテナンス作業をおこなうことで、お部屋への灰やススの飛散を軽減することができます。

1）側面耐火レンガ、天面耐火レンガ、背面耐火レンガ、レンガスペース小レンガスペース大、燃焼ポット内、燃焼ポット外を取り外しそれぞれの部品を清掃します。

【注意！】

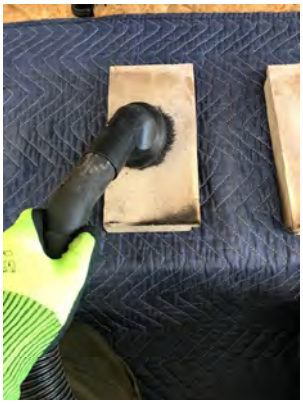
耐火レンガや燃焼ポットなどの部品は絶対に水洗いしないでください。
破損や金属の腐食の原因となります。





※背面耐火レンガはマイナスドライバーを使用すると取り外し易いです。

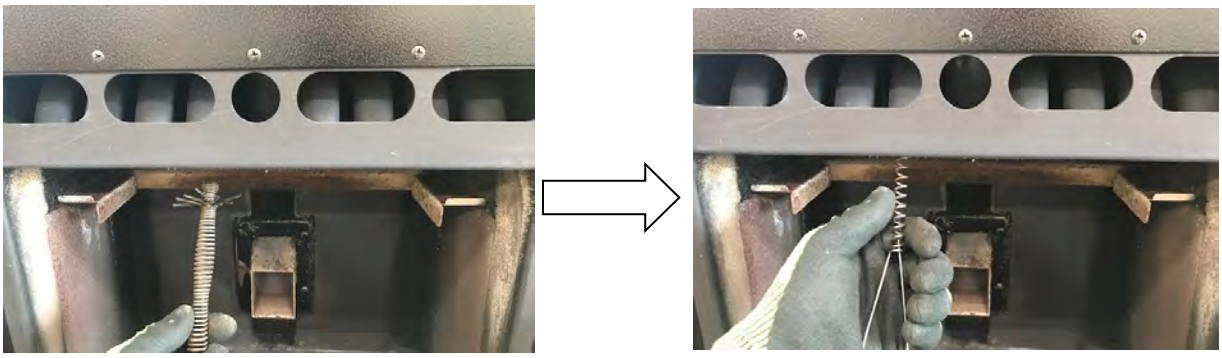
※集塵機で吸い取りながらブラシやスクレイパーを使用し、表面に付着した汚れを取り除きます。（サビは無理に取り除く必要はありません）





2）バネブラシを使用し、熱交換パイプ８本を清掃します。

※必ずバネブラシの取っ手部分まで差し込んで清掃してください。



※最後に集塵機で熱交換パイプ内の灰やススを吸い取ります。



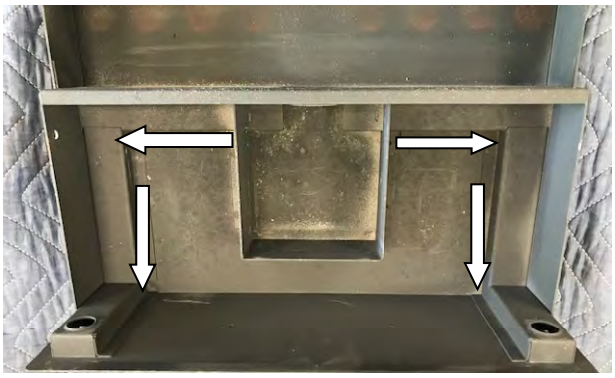
3）灰受けを取り外し清掃します。

※型式によって灰受けの形状が異なりますが、熱交換パイプ内の灰やススは灰受け奥に落ちるようになっています。

（灰やススが落ちる場所）



（SS-5plus の灰受けの形状、空気経路）



※SS-5Plus のみ、灰受けにエアカーテン用の空気経路がありますので、集塵機を使用し空気経路の灰やススを吸い取ります。

※SS-2、SS-10 の一部に２段式灰受け仕様がありますので、２段式灰受けの場合は、灰受けを全て引き出して清掃してください。

※SS-1 初期型には灰受けガラステープがあるので、ほつれていたり取れかかっている場合は交換が必要になります。

灰受けガラステープ

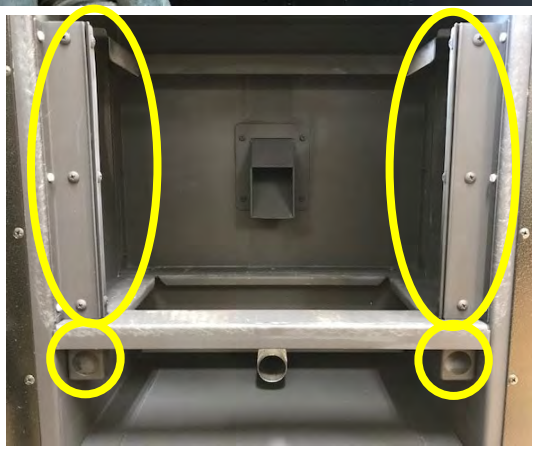


4）燃焼炉内の灰やスス、給気パイプ、ペレット投入口に付着した灰やススを取り除きます。





※SS-5plus のみエアカーテンの空気吹出口があるので、集塵機を使用し右図の箇所の灰やススを吸い取ります。



5）扉、耐火ガラス窓を清掃します。

※耐火ガラス窓の汚れが落ちにくい場合は炉内や灰受けに溜まっている灰を濡らしたウエスに付けて拭いたり、薪ストーブ用クリーナーを使用するときれいに汚れが落ちます。

※ガラスロープがほつれていたり、扉を閉めた状態ですき間が発生している場合はガラスロープの交換が必要となります。





6）燃焼炉内の清掃後、取り外したすべての部品を取り付けます。

②燃料タンク

1）燃料タンク内のペレットを出来る限り取り除いてから、ショートプラスドライバーを使用しスパイラルカバーを取り外します。
スパイラルカバーに付着したススはスクレイパーを使用し取り除きます。
※スカット（オプション）がある場合はスカットも取り外し清掃します。
※スパイラルカバー取り外しの際、燃料タンク底にウエスを敷いて作業するとネジの落下や紛失を防ぐことができます。

（スカット）

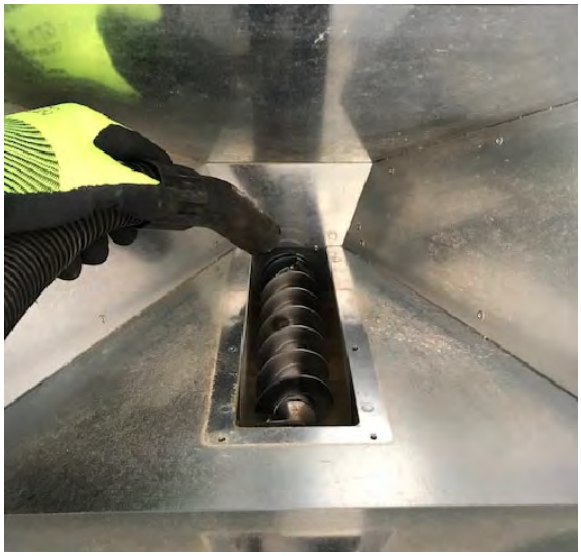




スパイラルカバー



2）スパイラルのすき間に残ったペレットを集塵機で吸い取ります。
※電源スイッチを入れ、ペレットダイヤルを最大にしてスパイラルを回転させながら作業すると効率的です。



3）スパイラルカバーを取り付け、最後に燃料タンク内に残ったペレットの粉を集塵機で吸い取ります。

③本体機械室、電装品

本体機械室、電装品を清掃する前に両側面パネル、天面パネルを取り外します。

製造番号によって電装品（排気ファン、温風ファン）を清掃するためにはストーブ本体と給排気筒を分離させる必要があります。設置環境によって１人作業が困難な場合は２名で作業を行うようにしてください。

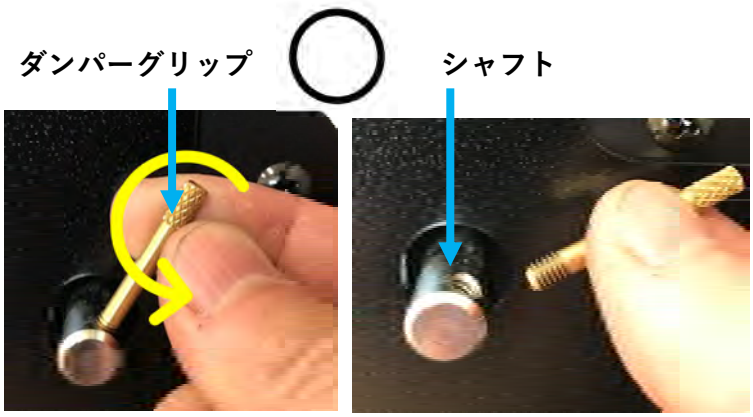
※製造番号によってパネルを固定しているネジの種類、数が異なりますので、ネジに適した工具を使用して取り外してください。

※製造番号 2015 以降の SS-10 のみ、給気レバー仕様になっていますので右側面パネルを外す前に、ダンパーグリップを外してください。

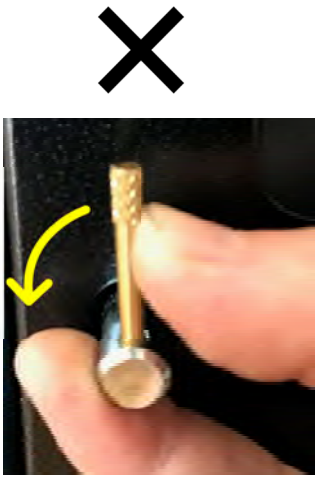
【注意！】

真鍮のダンパーグリップのみを、反時計回りに回転させて取り外してください。

シャフトごと反時計回りに回転させると、ダンパーグリップが根元から折れ修復が困難となります。



（手、またはペンチを使用します）



両側面パネル、天面パネルが外れた様子



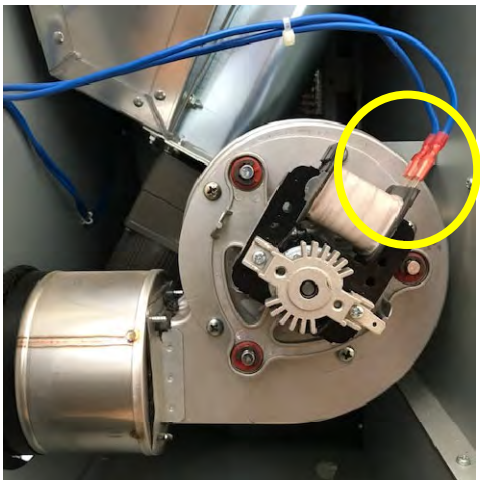


【排気ファンの清掃】

取り付けられている排気ファンの様子を確認し、それぞれのパターンの清掃方法に従い清掃してください。

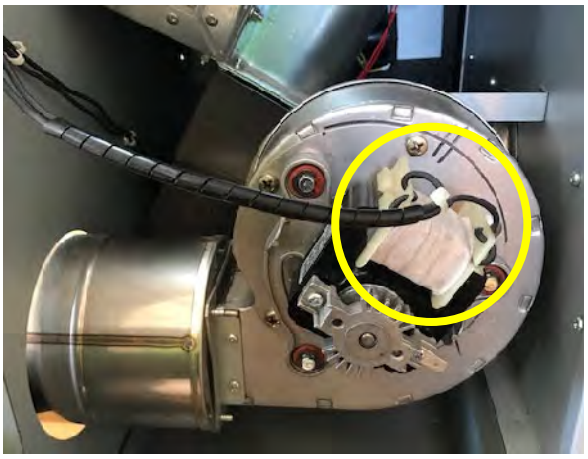
●パターンＡ（Ｐ13 へ）

排気ファンモータ部に
接続端子が付いている



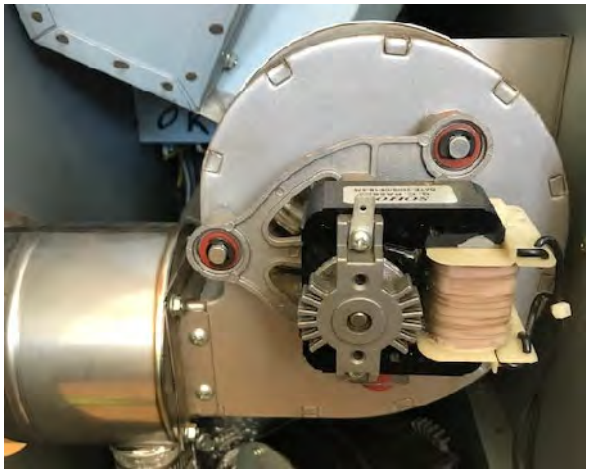
●パターンＢ（Ｐ15 へ）

排気ファンモータ部に
接続端子が付いていない



●パターンＣ（Ｐ18 へ）

排気ファンモータが脱着
できない
※取り外すネジが無い



●パターンＡの清掃方法

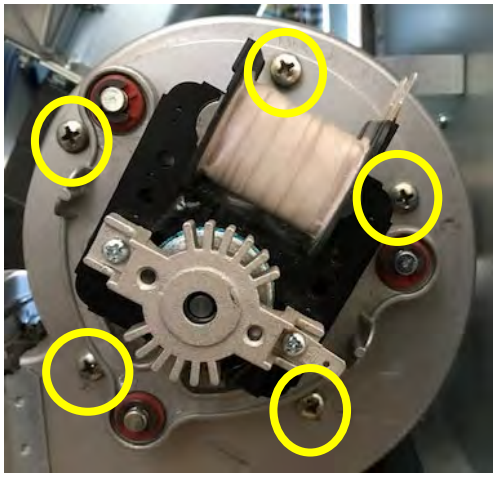
１）排気ファンモータに接続されている端子を２本取り外します。



２）プラスドライバー（№2）を使用し、５つのネジを外してから排気ファンモータを取り外します。

排気ファンは柔らかいブラシや集塵機を使用して清掃してください。

※排気ファンモータが落下しないように支えながらネジを外します。





【注意！】

金属製などの固いブラシなどで強くこすると、フィンが変形したり、バランスクリップが外れるなどし、軸ブレを起こし異音の原因となります。

3）排気ファンケーシング内、排気ダクト内、横引き配管内をブラシと集塵機を使用し清掃します。

（排気ダクト内）



（横引き配管内）



【横引き配管内の清掃方法】

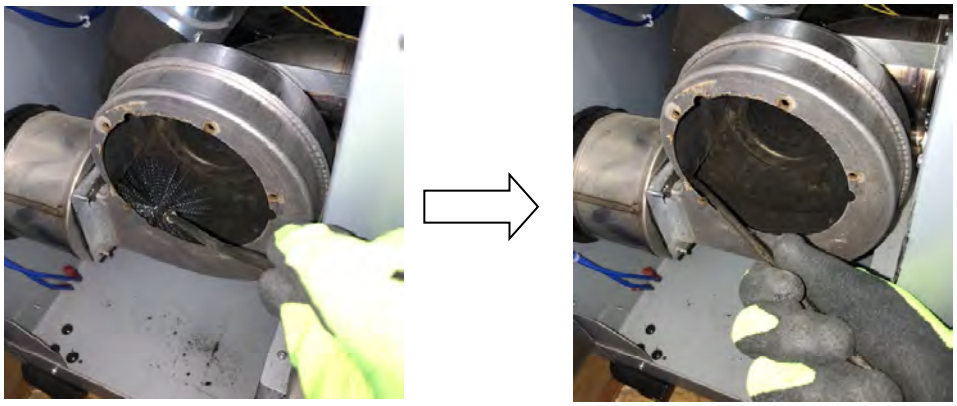
オプションの排気筒掃除用棒と、排気筒掃除用ブラシを連結させて下図の場所からブラシを入れ込み、横引き配管内の灰やススを奥へ押し出します。

※灰やスス飛散防止のため、集塵機を使用しながら作業します。

※ブラシの代わりに、集塵機のノズルを差し込んで清掃することも可能です。

ブラシで灰やススを押し込むと、室内Ｔ字管や室外Ｔ字管の底に落ちますが、直出し配管の場合は事前に排気出口を袋で覆ってから作業してください。





清掃が終わったら、逆の手順で排気ファンモータを取り付け、ビス５個で固定します。最後に端子２本を排気ファンモータに接続します。

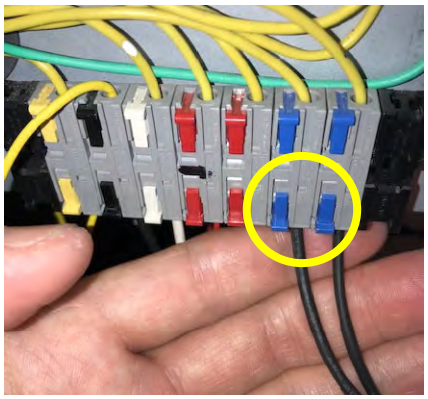
●パターンＢの清掃方法

１）本体右側機械室にある端子台の排気ファンの配線を抜きます。

※端子台のつまみを上げてから配線を抜きます。

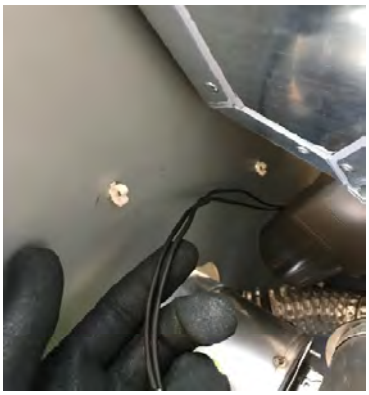
（黒線２本）

背面パネルのハーネスクリップで固定されている配線を取り外します。



（端子台の様子）



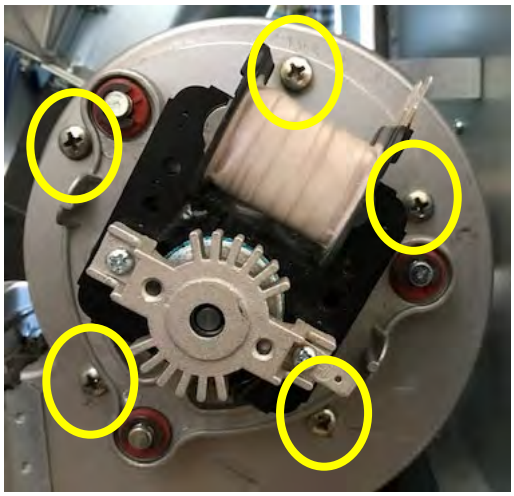


（ハーネスクリップの様子）

２）プラスドライバー（№2）を使用し、５つのネジを外してから排気ファンモータを取り外します。

排気ファンは柔らかいブラシや集塵機を使用して清掃してください。

※排気ファンモータが落下しないように支えながらネジを外します。





【注意！】

金属製などの固いブラシなどで強くこすると、軸ブレを起こし異音の原因となります。

3）排気ファンケーシング内、排気ダクト内、横引き配管内をブラシと集塵機を使用し清掃します。

（排気ダクト・丸）

SS-1 後期型　SS-2

SS-5　SS-5plus　SS-10



（排気ダクト・角）

SS-1 初期型



【横引き配管内の清掃方法】

オプションの排気筒掃除用棒と、排気筒掃除用ブラシを連結させて下図の場所からブラシを入れ込み、横引き配管内の灰やススを奥へ押し出します。

※灰やスス飛散防止のため、集塵機を使用しながら作業します。

（横引き配管）



※ブラシの代わりに、集塵機のノズルを差し込んで清掃することも可能です。
ブラシで灰やススを押し込むと、室内Ｔ字管や室外Ｔ字管の底に落ちますが、直出し配管の場合は事前に排気出口を袋で覆ってから作業してください。







清掃が終わったら、逆の手順で排気ファンモータを取り付け、ビス５個で固定します。
最後に配線をハーネスクリップで固定し、端子台に配線を差し込みます。
※配線を差し込んだらつまみを下げてロックします。

●パターンＣの清掃方法

１）本体と給排気筒を取り外します。

※排気ファンモータが脱着できない仕様の為、本体と給排気筒を取り外して清掃を行う必要があります。設置環境によって１人作業が困難な場合は２名で作業を行うようにしてください。

※床や周囲の壁が汚れないように養生シートを敷くなどして床や壁を保護をし、本体と給排気筒を取り外してください。

２）エアダスターとシリコンチューブを使用し、給排気筒差し込み口から、シリコンチューブを排気ダクトへ差し込み、エアを噴出しながら排気ダクト内を清掃します。

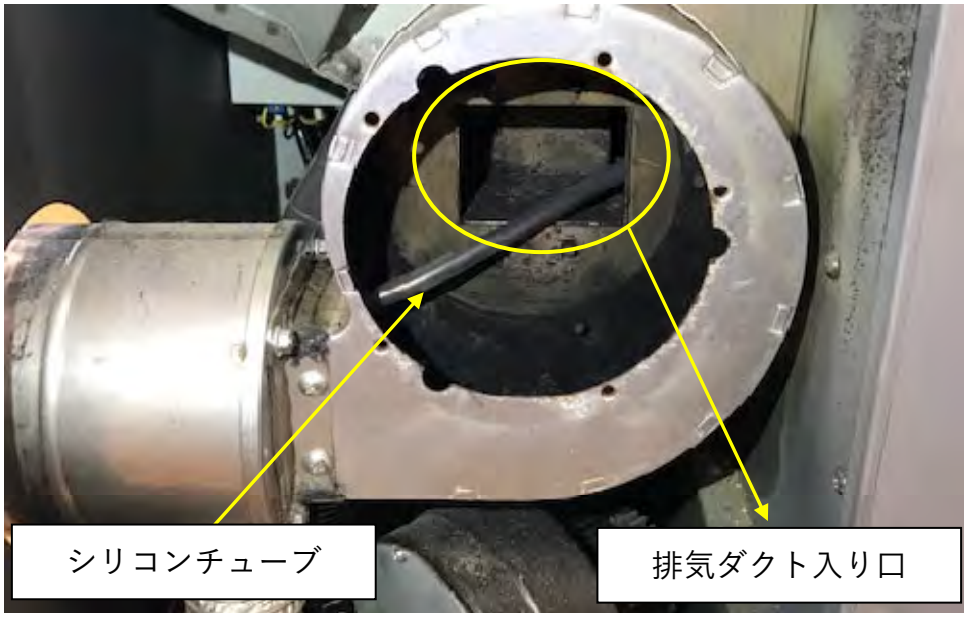


３）排気ダクトにシリコンチューブが入るように調整しながら差し込みます。





※下図は差し込まれた状態のイメージです



4）エアを吹き出して排気ダクト内を清掃します。

※屋内に灰やススが吹き出さないように、必ず本体扉を閉めてからエアを吹き出してください。

5）燃焼炉内を改めて清掃します。

※エアで吹き出された灰やススは、燃焼炉内に溜まります。
改めて燃焼炉内を清掃します。

※このあたりに排気ダクトに溜まっていた灰やススが吹き出されます。

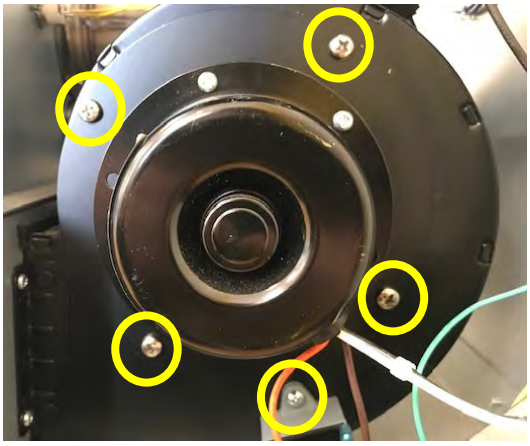


※脱着不可の温風ファンを清掃する場合は、このまま P22 へ進んで清掃をおこなってください。

【温風ファンの清掃方法】

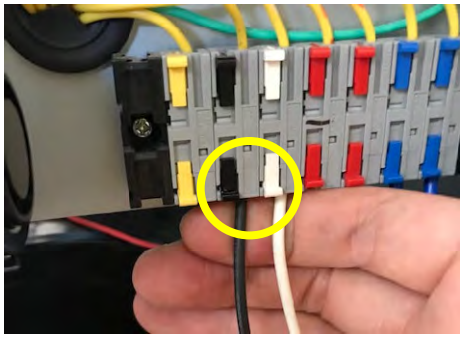
製造番号によって、温風ファンモータが脱着できない仕様がありますので温風ファンの様子を確認し、それぞれのパターンに従い清掃してください。

右図に印したネジがある製品は脱着が可能で、ネジが無い製品は脱着ができませんのでパターンに従い清掃してください。



●脱着可　パターンＡ（このページから）
●脱着不可　パターンＢ（Ｐ21）
※脱着不可の場合は本体と配管を取り外す必要があるので、必ず床に養生をしてから取り外してください。

●パターンＡの清掃方法
１）本体右側機械室にある端子台の温風ファンの配線を抜きます。
（黒線・白線）
※端子台のつまみを上げてから配線を抜きます。



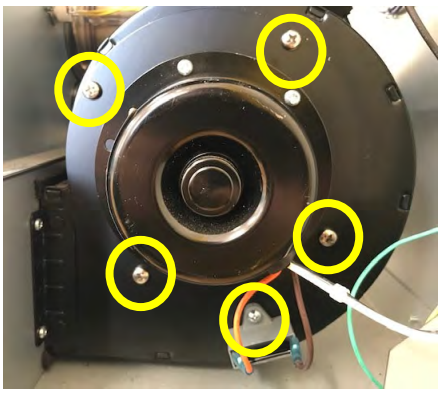
2）プラスドライバー（№2）を使用し、5つのネジを外してから温風ファンモータを取り外します。

※排気ファンモータが落下しないように支えながらネジを外します。

フィンに付着しているホコリはハケや柔らかいブラシ、集塵機を使用して清掃してください。

【注意！】

金属製などの固いブラシなどで強くこすると、フィンが変形したり、バランスクリップが外れるなどし、軸ブレを起こし異音の原因となります。





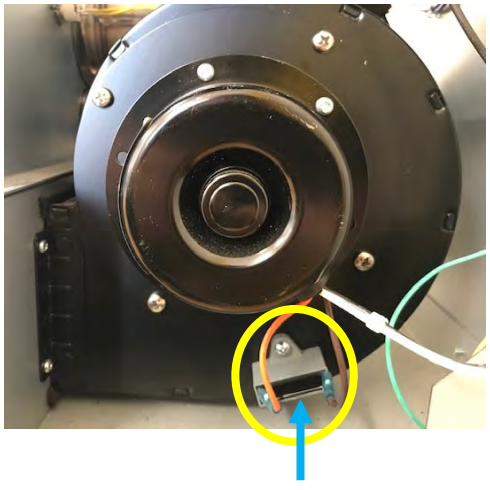


3）清掃が終わったら、逆の手順で温風ファンモータを取り付け、ビス5個で固定します。最後に端子台に配線を差し込みます。

※配線を差し込んだらつまみを下げてロックします。

※コンデンサの端子が外れている場合は、差し込んで取り付けます。

端子が外れている状態では温風ファンは作動しません。

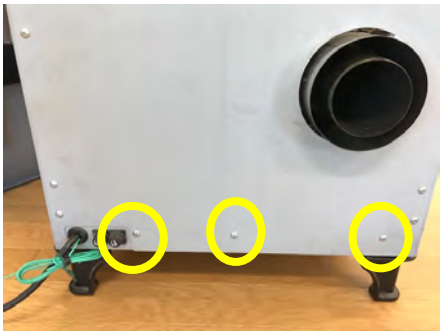


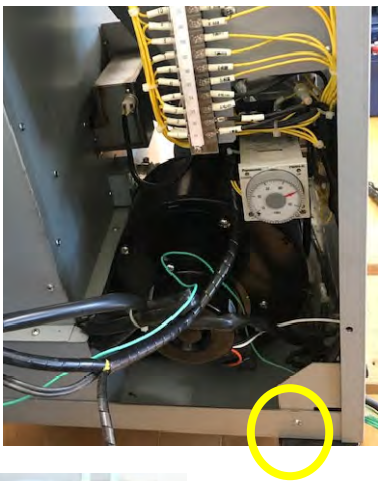
●パターンＢの清掃方法

１）温風ファン本体ごと取り外すため、本体と配管を取り外してから、下図のネジを外し、背面パネルを取り外します。

（右面１カ所）　（背面３カ所）　（左面１カ所）



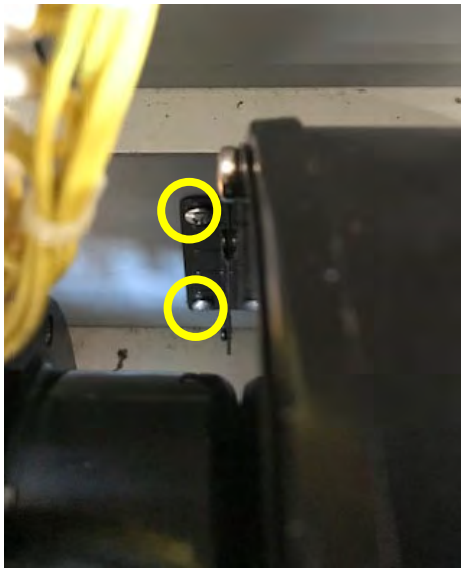


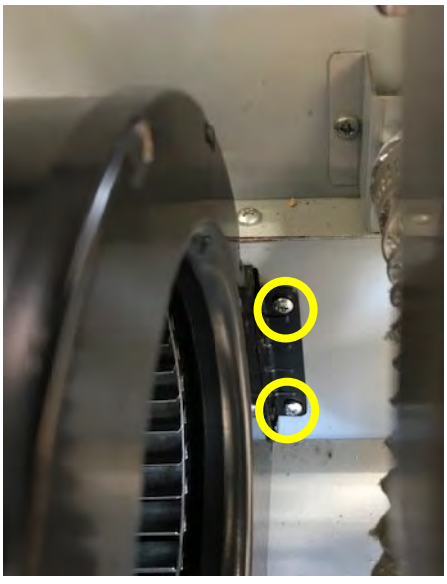


※背面パネルは完全に取り外せませんので、右図の様に本体に立てかけて作業をおこないます。



２）温風ファン本体フランジのネジをロングプラスドライバー（№２）を使用して外し、温風ファン本体を取り外します。（ネジ４カ所）





3）フィンに付着しているホコリは綿棒や柔らかいブラシ、集塵機を使用し清掃してください。

【注意！】

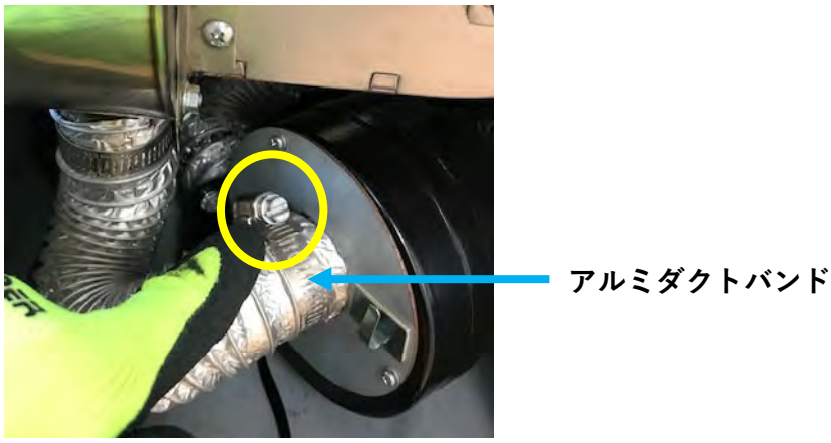
金属製などの固いブラシなどで強くこすると、フィンが変形したり、バランスクリップが外れるなどし、軸ブレを起こし異音の原因となります。



4）清掃が終わったら、温風ファン本体を取り付け、ロングプラスドライバー（№２）でフランジにビス４個で固定し、背面パネルも逆の手順で取り付けます。

【燃焼ファンの清掃方法】

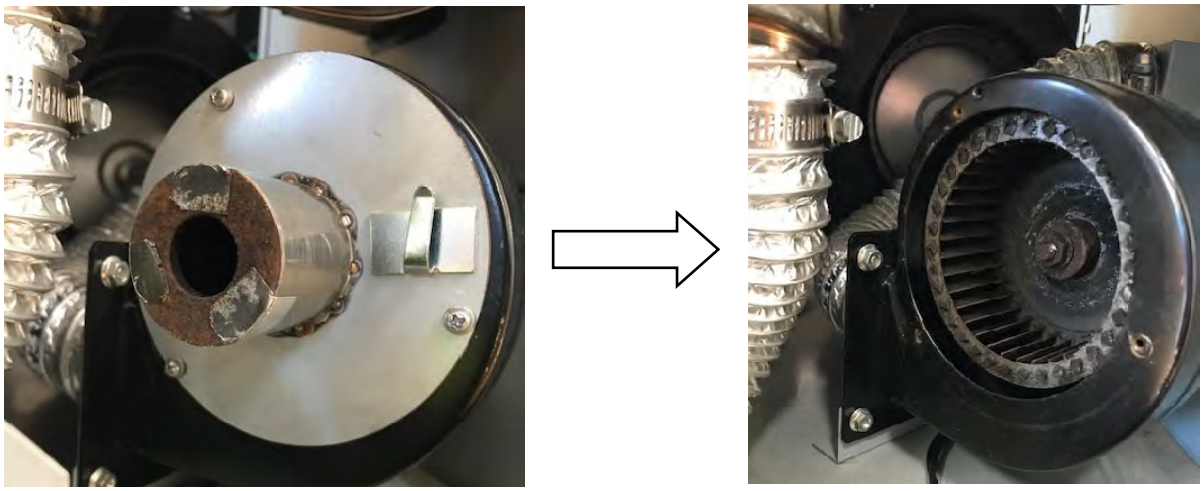
1）マイナスドライバーを使用しアルミダクトバンドを緩め、アルミダクトを取り外します。



2）ショートマイナスドライバー（№2）を使用し、カバーを取り外します。綿棒や柔らかいブラシ、集塵機を使用しフィンを清掃します。

【注意！】

金属製などの固いブラシなどで強くこすると、フィンが変形したり、バランスクリップが外れるなどし、軸ブレを起こし異音の原因となります。



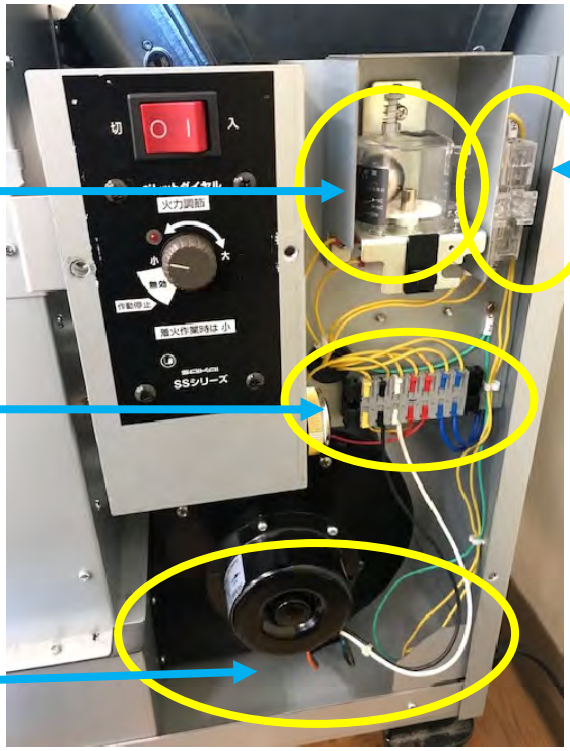
3）清掃が終わったら、逆の手順でカバーとアルミダクトを取り付け、アルミダクトバンドを締め付けます。

【本体機械室内の清掃方法】

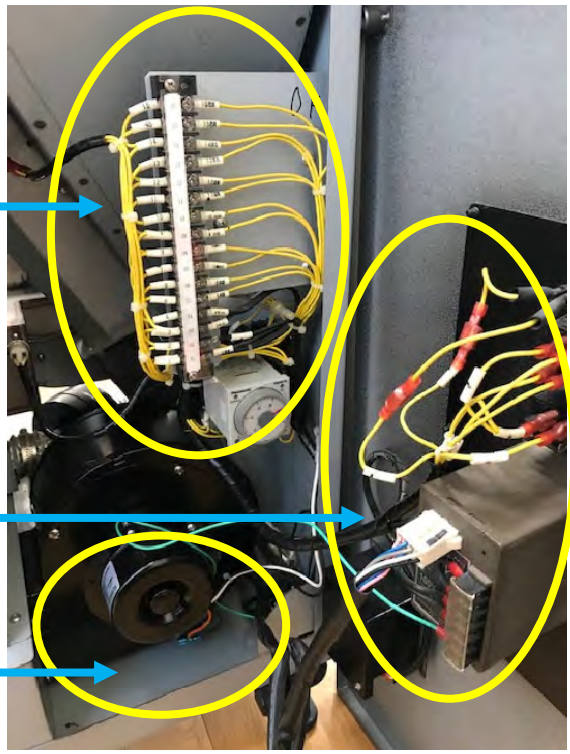
1）柔らかいハケ、集塵機を使用し機械室内のホコリを除去します。

〇印内を特に注意して清掃をおこなってください。

（後期型製品の機械室の様子）



（初期型製品の機械室の様子）



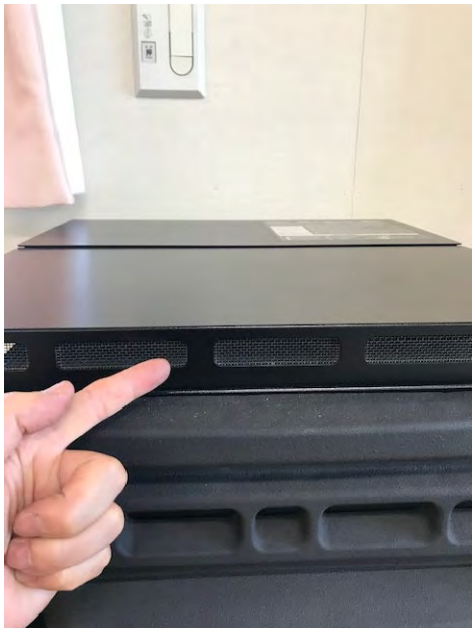
【吸気口アミの清掃方法】

1）両側面パネル、天面パネルの吸気口アミのホコリを、集塵機を使用し清掃します。

（側面パネルの吸気口アミ）



（天面パネルの吸気口アミ）



※本体機械室内、電装品の清掃が終わったら、両側面パネルと天面パネルを取り付けます。

④給排気筒

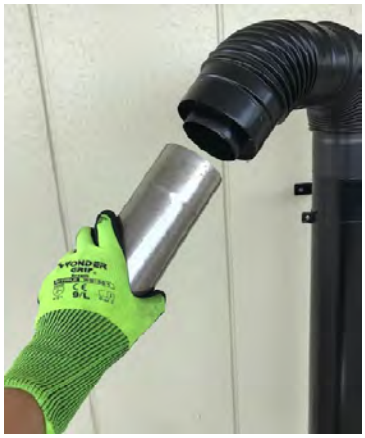
【室外立上げの場合】

1）汚れ防止のため室外Ｔ字管の下に養生してから、室外Ｔ字管のキャップを外し、室外Ｔ字管の底をビニール袋で覆います。





2）排気トップを外し、専用の排気筒掃除ブラシを差し込んで給排気筒内の灰やススをビニール袋へ落とします。







3）壁貫通部排気筒内の灰やススは、排気ファン清掃時に排気ファンケーシング内からブラシで押し込むことによって、室外Ｔ字管の底に落ちるようになっています。

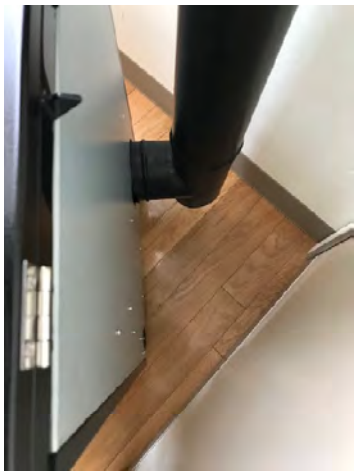
横キャップＴ字管が取り付けてある場合は、横のキャップを取り外して集塵機のノズルを差し込み灰やススを除去します。

（横キャップＴ字管）



【室内立上げの場合】

1）汚れ防止のため付近の壁と、室内Ｔ字管の下に養生をし、室内Ｔ字管の底をビニール袋で覆ってから室内Ｔ字管のキャップを外します。





2）排気トップを外し、専用の排気筒掃除ブラシを差し込んで給排気筒内の灰やススをビニール袋へ落とします。



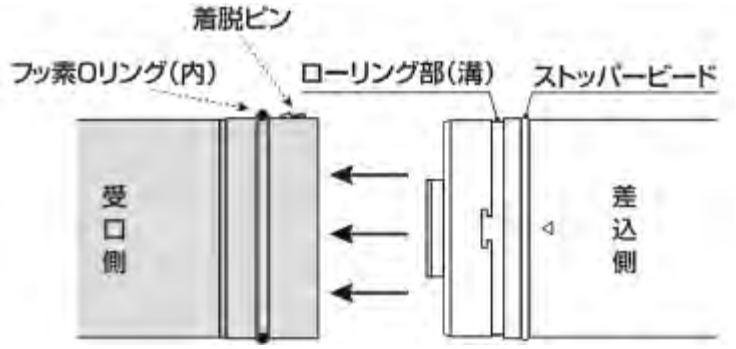


【直出しの場合】

1）排気トップを外し、集塵機のノズルを差し込んで給排気筒内の灰やススを除去します。




※給排気筒接続部を取り外した場合は、接続部内部のＯリングを新しいものに交換してください。





※Ｏリングはストーブ運転中の排気熱により焼き付き、給排気筒が外しにくくなる場合があります。

※シーズンオフの防虫・防鳥対策

周囲の環境により、給排気筒出入り口から虫や鳥が内部に侵入することがあります。

エンドキャップ（別売りオプション）をご使用いただくと

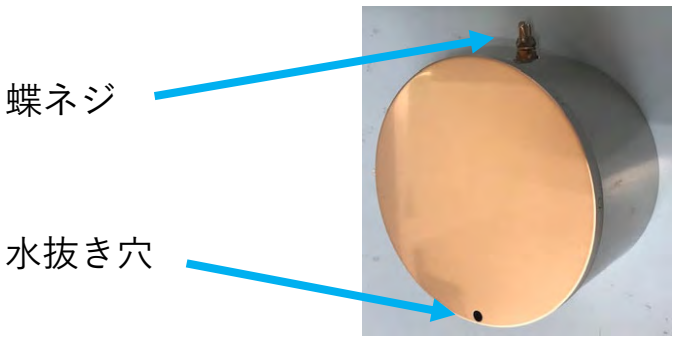
防虫・防鳥の対策ができます。

【エンドキャップの使用方法】

・水抜き穴を下に向けてセットしてください。

・給排気筒が変形する可能性がある為、蝶ネジを閉めすぎないよう注意してください。

少し抵抗がかかる程度の締め方で問題ありません。



7．動作確認

1）電源プラグをコンセントに差し込み、感震自動消火装置をセットします。

2）電源スイッチを入れ、排気ファンとスパイラルモータの作動を確認します。

※燃焼が可能な場合は燃焼確認をおこない、温風ファンの作動まで確認します。

3）消耗品交換が必要な場合は、別紙の修理マニュアルを参照し交換します。

※作動確認時に異常が見つかった場合は、弊社までご連絡ください。

warmArts
株式会社 新越ワークス
エネルギー事業部
〒959-1286 新潟県燕市小関681番地
TEL(0256)64-8580(代)
FAX(0256)63-7977
受付時間：祝祭日を除く平日9:00～17:00